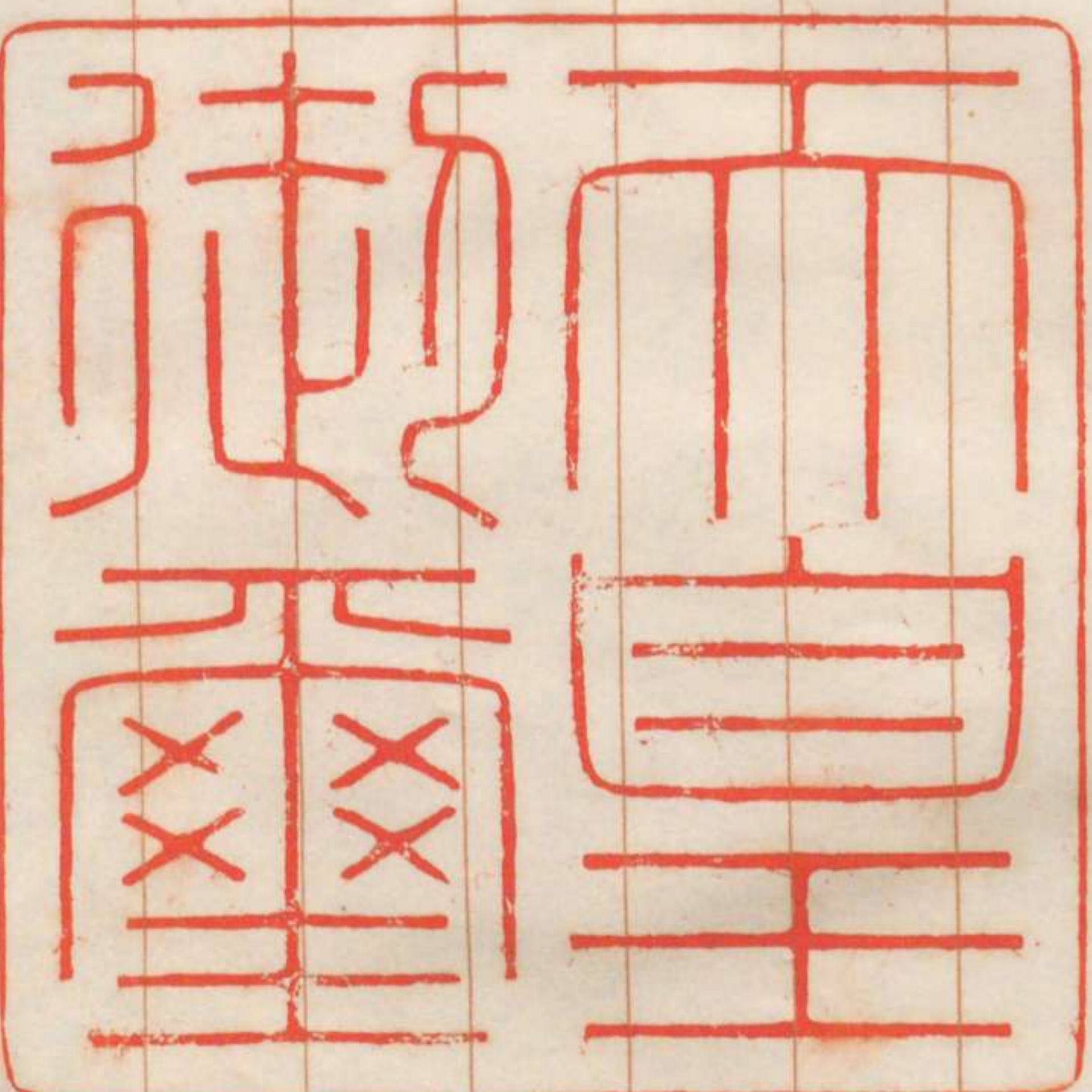


法律第二十二号

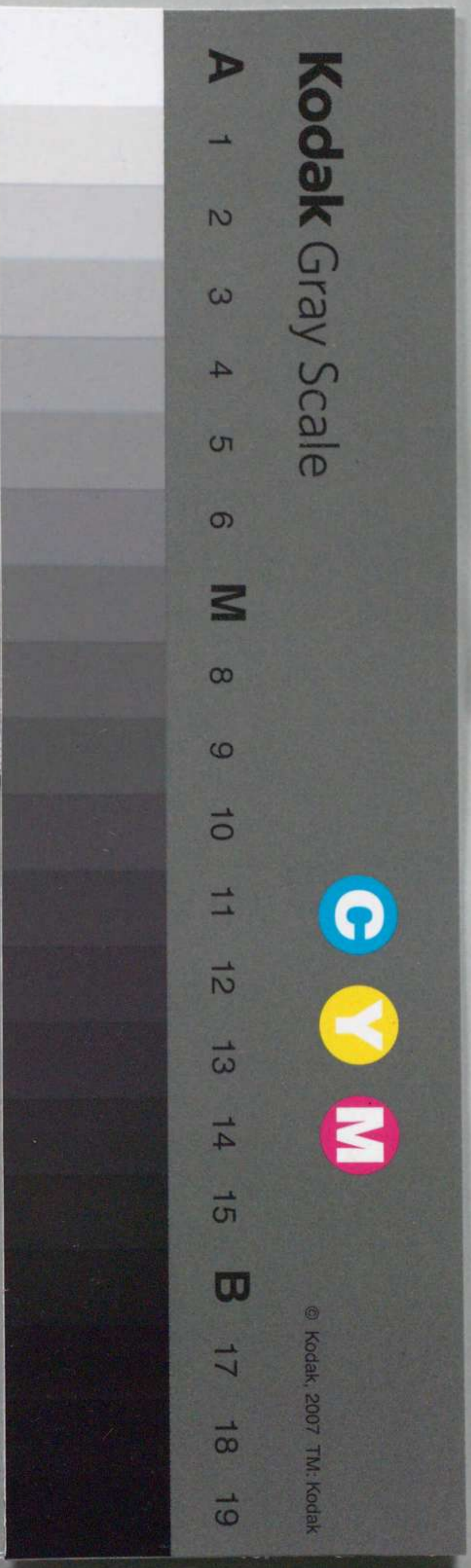
朕裁判所構成法施行條例ヲ裁  
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

睦  
仁



明治二十三年三月十八日

司



内閣總理大臣伯爵山縣有朋  
司法大臣伯爵山田顯義

法律第二十二號

裁判所構成法施行條例

第一條 從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシテ從來ノ成法ニ定メタル區裁判所トシテ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシテ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條 始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ

檢事局トス控訴院大審院ノ檢事局モ  
示同シ

第三條 區裁判所ノ管轄區域ヲ為ス町  
村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ  
及ホスモノトス

第四條 裁判所構成法實施前他ノ裁判  
所第一審トシテ受理シタル民事訴訟  
及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判  
所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘  
相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス既ニ

為シタル裁判ハ區裁判所之ヲ為シタ  
ルモノト看做ス

第五條 裁判所構成法ニ依リ地方裁判  
所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院  
ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ  
裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘ  
キモ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民  
事刑事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘ  
シ

第六條 裁判所構成法實施前重罪裁判

所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在  
ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノト  
ス既ニ為シタル裁判ハ地方裁判所之  
ヲ為シタルモノト看做ス

第七條 裁判所構成法實施前始審裁判  
所ニ於テ受理シタル郡長區長戸長又  
ハ市長町長村長ニ對スル民事訴訟ハ  
同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘ  
キモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判  
シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對

スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判  
スヘシ

第八條 裁判所構成法實施前高等法院  
ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ  
儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等  
法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁  
判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ  
第九條 明治十八年第三十一號布告違  
警罪即決例ハ裁判所構成法ノ為ニ變  
更ヲ受クルコトナシ

第十條 明治十八年第十二號布告普通  
治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ  
件處分法ハ裁判所構成法ノ為ニ變更  
ヲ受クルコトナシ

第十一條 明治二十一年勅令第六十四  
號ハ仍効力ヲ有ス

區裁判所出張所ニ於テ判事差支アル  
トキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ  
取扱ハシムルコトヲ得

北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ

地方ニ於  
村長ニ委  
ムルコトヲ  
得  
ハ郡長町長又ハ  
記事務ヲ取扱ハシ

第十二條 東京地方裁判所管内小笠原  
島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟  
ニシテ區裁判所ニ屬スルモ  
ノ及非訟事件ハ  
之ヲ取扱フ但シ  
宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條 沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴

第十條 明治十八年第十二號布告普通  
治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ  
件處分法ハ裁判所構成法ノ為ニ變更  
ヲ受クルコトナ

第十一條 明治一  
號ハ仍効力ヲ有ス  
區裁判所出張  
トキハ裁判所  
取扱ハシム  
北海道及  
區裁判所遠隔ノ



地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ  
村長ニ委任シテ登記事務ヲ取扱ハシ  
ムルコトヲ得

第十二條 東京地方裁判所管内小笠原  
島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟  
ニシテ區裁判所ノ裁判權ニ屬スルモ  
ノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏  
之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續ハ便  
宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條 沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴

訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方  
裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノハ裁判  
所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ  
控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ長崎  
控訴院ノ管轄トス

第十四條 樺戸空知釧路ノ集治監ノ囚  
人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ノ裁判  
ニ關ル明治十五年第十六號第四十一  
號及明治十八年第四十二號布告ハ仍  
効力ヲ有ス

前項ノ裁判ハ地方裁判所之ヲ為シ夕  
ルモノト看做ス

第十五條 明治二十一年勅令第七十一  
號清國并ニ朝鮮國駐在領事裁判規則  
ハ裁判所構成法ノ為ニ變更ヲ受クル  
コトナシ

第十六條 裁判所構成法實施ノ際在職  
ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章  
ノ要件ヲ必要トセス

第十七條 裁判所構成法實施ノ際在職



ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九  
條ノ要件ヲ必要トセス

第十八條 裁判所構成法實施後三年間  
ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ  
一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得  
明治十七年太政官達第百二號判事登  
用規則及明治二十年勅令第三十七號  
文官試験試補及見習規則ニ依リ試補  
ト為リタル者ハ第二回試験ヲ要セス  
シテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコト

ヲ得

第十九條 裁判所構成法實施後一年間  
ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六  
十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補  
職ヲ為スコトヲ得

第二十條 三年以上裁判官又ハ檢察官  
ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上舊參  
事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル  
者又ハ三年以上法制局參事官ノ職ヲ  
奉シタル者又ハ三年以上司法省高等

官(會計局ノ高等官ヲ除ク)ノ職ヲ奉シ  
タル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ  
之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得  
第二十一條 裁判所構成法第二編第二  
章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニ  
モ亦之ヲ適用ス